

# Grid Town

## 町のグリッドを寄せ集める



金田真秀  
建築設計計画 | 研究室

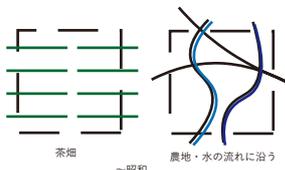


### □コンセプト

埼玉県入間市を題材に設計をおこなった。この町の歴史の中には、グリッドの変遷が存在する。古くから農地だったこの土地は、戦前飛行場になり、農地が消滅します。戦後、飛行場が返還され、グリッドが結合され始めます。その後、圏央道が開通し、分断され、現在は区画整理事業により細分化されています。

私は実際にこの町に住んでおり、この地域の歴史性を感じられ、よりどころになる場を設計したいと考えた。

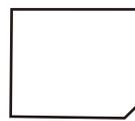
1. 縄文時代～元々の地形を生かした道 = 地形を反映した道、水の流れ
2. 1933年(昭和8年) 旧日本陸軍士官の練習場 = 1.39km×1.69kmの道の消滅
3. 1945年(昭和20年) 戦後、返還され、狭山台土地区画整理事業が開始 = 185m×108mのグリッドの出現
4. 1969年(昭和44年) 戦後高度成長期、武蔵工業団地が造成 = グリッドの一部が結合により巨大化
5. 1996年(平成8年) 圏央道の開通 = グリッドの分断
6. 2006年(平成18年) 狭山台土地区画整理事業により、住宅化 = グリッドの細分化



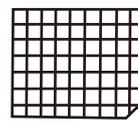
茶畑

～昭和

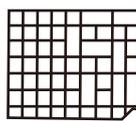
農地・水の流れに沿う



消滅 戦時中(昭和8年)



グリッドの出現 戦後(昭和20年)



グリッドの結合 高度成長期(昭和44年)



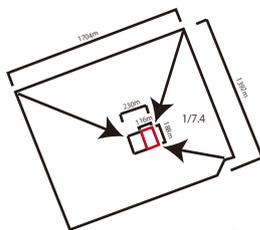
グリッドの分断 1996年(平成8年)



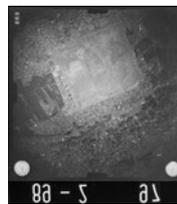
グリッドの細分化 2006年(平成18年)

### □プログラム

私は、この町のグリッドを活かすため、グリッドを移植することを考えた。この入間市の中の古くからある茶畑・青梅道、出現した工場街のグリッド、分断した圏央道が存在するものを選択した。また、敷地にその形を移植するため、工業団地の立幅と敷地の縦幅から、縮尺を設定した。その際に、敷地の横幅工業団地の横幅を縮尺を用いて、敷地を拡大した。そうして、スケールの縮小をおこない体感するレベルに設定した。



縮尺設定



2. 消滅



3. グリッドの出現

### □デザイン

敷地内は、移植したグリッドをもとに、建物や車道、人道などを設定した。敷地内は、公園と利用してもらうため、グリッドの線の幅を調整を行い、内部は芝や農地として、周辺に住む人々の利用を考えた。車道は、青梅道のグリッドを利用した。建築物は、グリッドを元に、形を立ち上げた。住んでいる人や工業団地で働く人々に向けて、レストラン、カフェ、ワークスペース、ギャラリーも建築機能として、盛り込んだ。



4. グリッドの結合



5. グリッドの分断



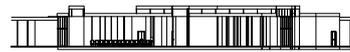
6. グリッドの細分化



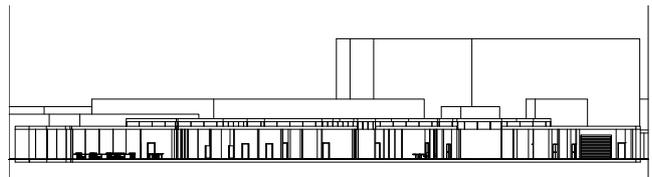
配置図兼屋根伏せ図 1/1000



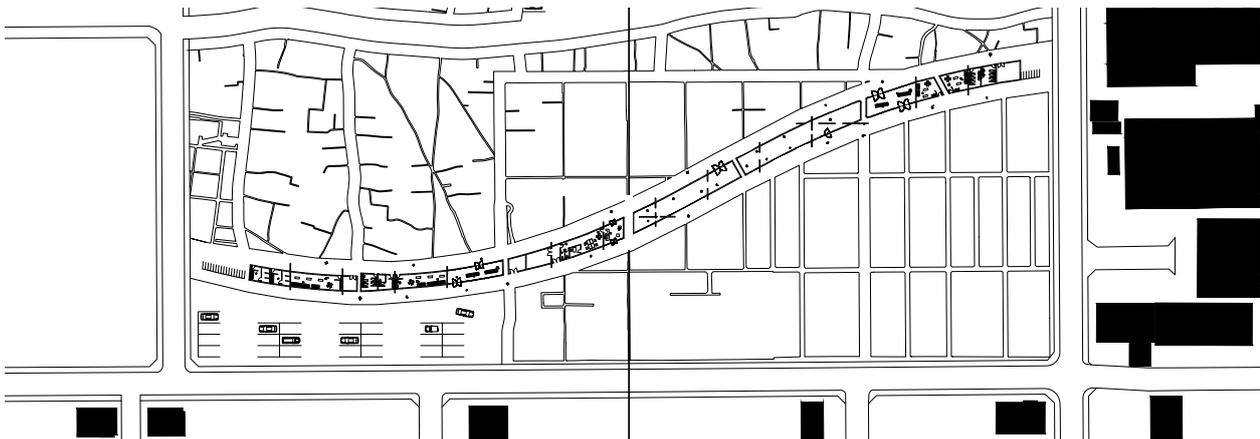
平面図1 1/2000



断面図 A-A' 1/1000



断面図 B-B' 1/1000



平面図1 1/2000